

ウルリム  
響

# 星 環

URL <http://www.nskk.org/province/ikuno>

E-mail: [nskkikuno@gmail.com](mailto:nskkikuno@gmail.com)

特定非営利活動法人  
聖公会生野センター機関誌  
第69号  
2019年8月5日発行  
題字：康秀峰

聖公会生野センター

検索

## 「ことば」

主教 ヨハネ 吉田 雅人

今、少々気になっていることがあります。それはいろいろな場で発せられる「ことば」と言いますか、「ことばの用い方」についてです。

例えばテレビのニュースで国会の討論などを見ていると、「悪夢のような～党政権」とか「愚か者の所業」などといった、攻撃的で、相手の人のことを決めつけ、貶めるような発言が当たり前のように出てきます。「攻撃は最大の防御」と考えているのか、「言ったもん勝ち」と考えているのか、このような言説を最近至るところで耳にします。

一方、6月24日、川崎市が市内でヘイトスピーチを行った者に対し、50万円以下の罰金を課すことのできる条例の素案を市議会に提示した、というニュースが報道されました。この素案によれば、罰金は勧告・命令を経て3回目の違反をした者等に、市が被害者に代わって検察庁や警察に告発する仕組みだそうです。判断は司法に委ねられるわけですが、これは「表現の自由」に留意してのことだと説明されています。

国会での上述のような発言とヘイトスピーチを同列に扱うことはおかしいと言われるかもしれません。しかしこのような事例は、私たちが「ことば」、「ことばの用い方」ということについて深慮することを求めているように思います。

「初めに言があった。…万物は言によって成った。…言の内に成ったものは、命であった（ヨハネ1:1～4）」。「神は言われた。『光あれ。』すると光があった。…神は言われた。…神は人を自分のかたちに創造された。…それは極めて良かった。（創1:1～31）」。

聖書によれば、神は言（葉）によって「命」を創造されました。命あるものを含めて、神が創造されたあらゆるものは「極めて良かった」ということを基礎に置くのが、私たちの信仰－生き方なのです。

私たちが生活の中で用いる言葉が、相手を貶めるためのものではなく、お互いを尊重し、大切にすることでありたいと思います。

（よしだ・まさと 東北教区主教）





父島の美しい海

# 小笠原を訪れて

執事 アンデレ 松山 健作

3月の末に小笠原父島を訪れました。東京から南へ1,000キロ。おがさわら丸に揺られて24時間の船旅でした。中高生たちと外洋の荒波に耐えると、父島の美しい海と島々が私たちの目の前に広がります。

見慣れない固有種の動植物があちらこちらに見えます。そして何よりエメラルドブルーに透き通った海は、私たちの心を癒します。透き通った海に白いサンゴも顔を出します。神さまの創造物の美しさを実感できます。

島内での私たちの移動手段は、徒歩のみ。ゆっくり父島の自然を味わい、海を見て、山を見て観察すると、あることを感じます。それは、戦争の足跡と言え良いでしょうか。ところどころに見られる洞穴は、弾薬庫や武器の格納庫です。山の上には、戦争に備えた砲台跡がそのまま残っています。

これらは私たちが歩くだけで感じる戦争跡です。こんなにも美しい自然の裏で、いのちが奪われる行為が行われていたという信じがたい光景が小笠原には見受けられるのです。それらを私たちは実際に見て感じました。

また感じるだけでなく、主日には小笠原聖ジョージ教会のみなさんと礼拝をおさげし、主の恵みを分かち合う時間を過ごすことができました。礼拝後は、信徒のみなさんから小笠原で生きてこられたその体験についてお聞きする時間をご準備いただきました。

これらの時間は、私たちが歩いて見たものにリンクします。日本占領期、疎開時代、アメリカ占領期、日本への返還期と時代の状況に左右された小笠原の信徒さんの生き方は、一言では語るることのできないアイデンティティです。

言語のこと、名前のこと、民族のことなどなど複雑に絡み合っています。ある人は、戦時中に集団疎開させられ、弾薬の薬莢を作る工場で働かせられました。小笠原でのんびりとした生活から一転、朝の7時から夜の19時まで戦争のために動員されました。また島民の名前が欧米名であることから戦争末期には、朝鮮人にも強制した「創氏改名」せよとの手紙が届きました。

それらは、大切に生きてきた生活が突然奪われ、馴染んできた名前が奪われ、また言葉も状況に応じて、権力者たちの事情によっていずれかの言語が強要されたので

す。自分を表現することのできる言語が政治的状况の中で変えられる辛さ、苦しみ、「自分は何人なのだろうか」という疑問を感じたという貴重なお話をうかがいました。

私たちは素晴らしい自然の裏で、「平和とは、どういう状況であるのか」ということについて、じっくりと考えなければならないことを感じました。自らのアイデンティティが奪われる恐ろしさ、それを奪ってしまったかつての時代、そこにいかなる力が働いたのかということについて、よくよく想像し、学ばなければならないのでしょう。

そして、その暴力的な行為は、今尚も私たちの身近なところで実は、起こっているということを把握しなければならぬでしょう。差別によって、抑圧によって、誰かのアイデンティティが脅かされているという現状があるのではないかとすることを予感する力を磨く必要があるかもしれません。

私たちは、この小笠原訪問によって、島のコントラストに驚きを覚えました。これらは現地に訪れなければ、感じるることのできない肌感覚の平和学習であったのだと思います。私たちは本で読めば、歴史を学べばそれで理解できると単純に考えるかもしれません。けれども、現場の声に耳を傾け、生の声を聞くことによってしか気づくことのできない新たな視点が与えられるそのような小笠原訪問になったのではないかと感じています。

(まつやま・けんさく)

聖光教会牧師補、聖光幼稚園園長)



小笠原聖ジョージ教会の信徒さんと

## 「私の隣人とはだれですか」 —プール学院高校“Glocal Study I”の取り組み—

司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

「大阪市生野区には2019年4月現在、日本を除いて62カ国にルーツを持つ、方々がともに生活しておられます。」

2019年4月より、本校で新しく始められた選択制の授業「Glocal Study I」は、プール学院が建てられている地、生野区の現状を分かち合うことから始まりました。

この講座は、地域の市町村・企業・NPO法人などと連携し、「グローバル」な視点を持ってコミュニティを支えるリーダーを育成することを目標としている「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」カリキュラムの具体的な実践です。真新しいプログラムではありますが、私たちがこの講座をカリキュラム化するに当たって、特段何か新しい事柄を始める必要はありませんでした。

なぜなら、プール学院はこれまで、さまざまな形で地域の方々に支えられながら、また地域とつながりながら歩みを続けてきたからです。地域の中学校を招いての吹奏楽コンサート、地元のパン屋さんとのコラボ企画、福祉施設や保育施設でのボランティアや職場体験など、人と人とのつながりを通して、学校と地域が共に新しい何かを生み出すことの大切さを実感し、取り組み続けてきた本校にとって「Glocal Study I」の開講は、本校に与えられている一つひとつの出会いが、神によって手繰り寄せられ、糸で結び合わされていくようなものとなりました。

現在は、聖公会生野センターの成り立ちや働きなどを通して在日韓国朝鮮人の歴史を学ぶことを皮切りとし、今後はアジアハウスさん(注)やロート製薬さんとの新たな出会いの機会が与えられようとしています。たくさんのつながりの中で生かされていることに改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

地域の中にある多様性を知り、私たちの生きる社会がどれだけ多くの違いをもつ人たちとの共生社会であるかを考え、肌で感じる事ができればと願いつつ、

生徒とともに学ぶ日々です。生徒からは「生野区にこれだけの外国人がいるなんて想像もできなかった」、「他の国で生きていくことの大変さを知り、日本にいる外国の方が困っていたら助けていきたいと思う」というような声が届けられています。

創立140年を迎えるキリスト教学校であるプール学院で学ぶ私たちが、どのように変えられていくことを



神は望んでおられるのか、日々祈り求めています。主イエスが「サマリア人のたとえ」の中で「隣人とは誰のことか」と律法の専門家に問われました。この問いは、自分以外の誰かと出会うときに「ある一定の枠組みや価値観」とらわれずに、「実際に会った人との関係」を大切にしろという、いのちの源である神が示されたメッセージだと信じています。

生野区という多様な文化的、宗教的、社会的な背景を持つ人たちが共生社会を作りつつある地に与えられた神の器であるプール学院が連なる一人ひとりとともに生き、「違い」や「摩擦」に希望を見出し、すべての与えられたいのちを愛おしむ共同体へと変えられていきますように、アーメン。(なるおか・ひろあき プール学院中学校・高等学校チャプレン)

(注) アジアハウス：1989年設立。生野区でアジア人の留学生寮、日本語学校などを運営。

## 御幸森神社にある王仁博士歌碑



5世紀に日本に正式に漢字を伝えたと言われる百済の王族の王仁博士を記念して建立されました。(2009年) コリアタウン入り口にある御幸森神社の境内にあります。  
王仁博士が詠んだと伝えられる和歌「難波津に咲くやこの花冬籠り今は春べと咲くやこの花」  
〒544-0034 大阪府大阪市生野区桃谷3-10-5

この地は、猪飼野と呼ばれ古代より日本と朝鮮半島の人々が交流してきたところ。約千六百年前、百済からの渡来人・王仁博士が、当神社の祭神である仁徳天皇のご即位を、春の到来になぞらえて祝い、難波津の歌を詠んだと伝えられています。それから歳月を経て江戸時代に、日本と朝鮮との善隣・友好の使節団「朝鮮通信使」が日本に十二回(そのうち、大阪には十一回)やってきました。その通信使の来日を祝い、対馬の通訳だった雲明が、この和歌をハンゲルで表し贈ったとされています。一九九四年、朝鮮通信使研究の辛基秀によって表現たつの市の八瀬で発見されました。

野の地に建立します。

日本と韓国・朝鮮との友好・共生の時代が

永く続くことを願い、この歌碑を難波の猪飼

(上) 歌碑の解説板  
歌碑の解説板には左のような文章が記されています。



## プール学院ボランティア



毎年、高校3年生9名が3週間、聖公会生野センターの高齢者食事会「のりばん」でボランティア体験をします。大学入学前の貴重な経験です。

## 済州43犠牲者慰霊碑

聖公会生野センターも20年取り組んできた済州43の活動を通して、2018年在日の慰霊碑が建立されました。日本、韓国で民間募金で作られました。在日の済州43の記憶が残されることになりました。

場所：和気山統国寺

〒543-0063大阪府大阪市天王寺区茶白山町1-31

(天王寺駅から北へ5分)



## 2・8独立宣言、3・1独立運動100周年記念礼拝



大韓聖公会ソウル大聖堂

マルコ 谷川 誠

日本聖公会と大韓聖公会との正式な交流は今年で35年になります。日韓両国及び両聖公

会の歴史を振り返り、お互いの持つ課題を確認し合うことで少しずつ双方の理解が深められています。これまで多くの先輩教役者、信徒が絆を大切にしていってくださったことは忘れてはならないことです。

このような交流から1992年に聖ガブリエル教会が復興され、聖公会生野センター、こひつじ乳児保育園が開設されたことは大きな喜びでした。

教区どうしの姉妹教区関係も継続されており、日韓合同会議、日韓青年セミナー、社会宣教スタディツアーも定期的に行われております。韓国人宣教協働派遣事業にも取り組み良き成果を上げてまいりました。

2014年には「日韓聖公会宣教協働30周年記念大会」が済州島で開催され、30周年共同声明を作成、発表することが出来ました。この声明の中にある課題の一つ女性の協働の促進は、日本聖公会は女性ディスク、ジェンダープロジェクト、大韓聖公会は両性平等局が担当になり活発なやり取りが行われています。昨年12月に催された「日本聖公会女性司祭按手20周年記念礼拝」には韓国から複数の女性司祭が参加いたしました。

こうした粘り強い交流は次第に実を結んでいると言えます。2019年は日本の韓国併合による植民地からの独立を求めた、2・8独立宣言、3・1独立運動から100周年に当たります。

2・8独立宣言は、1919年2月8日在日本東京朝鮮YMCA(現在の在日本韓国YMCA)に集まった数百人の朝鮮からの留学生が、母国の独立を願い独立宣言文を決議、採択して公に訴えました。直ちに警察により関係者の検挙、逮捕が行われましたが、この出来事は本国にも伝えられ、3・1独立運動への勇気を与えました。

日本聖公会は、今年、2月9日に2・8独立宣言100周年

を記念した礼拝を東京の目白聖公会で行いました。目白聖公会は、戦前の日本聖公会で最初に朝鮮語の礼拝がなされた教会です。この日、大韓聖公会からも4名の出席がありました。礼拝の中で独立宣言文を読み上げ、歴史的な出来事を記念いたしました。日韓が共に記念礼拝を捧げたのは、知る限りでは聖公会のみであり、交流35年の積み重ねを感じることができました。

2・8独立宣言の後、本国で開催された3・1独立運動は、6,000名とも言われる犠牲者を出しながら非暴力、不服従の闘いを繰り広げました。

1919年3月1日、3・1独立宣言書発表と同時に独立万歳を叫びながら民族の独立への要求を主張したのです。運動は鎮圧されてしまいましたが、その後のアジア諸国の独立運動への影響は計り知れないものがあり、まさに歴史に残る民族の闘いでした。

100年後の2019年3月2日には大韓聖公会ソウル大聖堂で3・1独立運動100周年記念礼拝が行われました。日本聖公会からも日韓協働委員等4名が参加いたしました。礼拝では古式ゆかしい装いの長老が3・1独立宣言文を格調高く朗読、会衆一同が独立万歳を唱えました。

政治的には微妙な日韓関係の中でも日本聖公会から礼拝出席者があり、記念礼拝を共にすることが出来て韓国の皆さんが感激、感謝してくれたことは嬉しいことです。

大聖堂の外の大通りには各ビルに巨大な国旗が掲げられ、3・1独立運動100周年を祝う市民に溢れ、歌い、踊り、アピール等、大きな喜びの祭りになっておりました。韓国にとって大切な記念日の盛り上がりを見るにつけ、これからどのように交流、親交を深めて行くべきか、この関係を決して途絶えさせることがないようと思い巡らしました。文化の違い、思いの違いを教会は乗り越えて行けると信じ、日韓聖公会の交わり、特に青年交流の中にその可能性を感じています。

(たにがわ・まこと 管区宣教主事)

2018年度会費納入・献金納入の方々  
(2018年4月1日～2019年3月31日 順不同、敬称略)

昨年も多くの方々からご支援頂きました。心より感謝申し上げます。  
教会でまとめてご送金くださったところもあります。そのため、ご支援くださった全ての方を掲載できておりませんがご容赦ください。  
地域と共に歩む生野センターの働きのため、今年もご理解とご協力のほどよろしくお願いします。  
なお、複数回ご献金くださった方はご芳名の後ろに回数を記しています。

【正会費】

岩田光正／文京洙／小山俊雄／石脇慶總／日本聖公会九州教区／伊藤美佐子／城下彰／冷麵館／松陰女子学院／嵯峨崎順子（故人）／井田泉／矢萩新一／谷川誠／三浦恒久／竹林徑一／出口弘／黒田裕／呉光現／熊取谷志郎／磯晴久／奥村貴充／前田良彦／井出吉志子／日本聖公会大阪教区婦人会／大西修／尾崎茂雄／奥晋一郎／武藤謙一／山本眞／古澤秀利／古澤恵依子／鍋島久美子／猿橋靖／博愛社／小出裕司／堀江裕一／木村幸夫／こひつじ乳児保育園／早川育子／佐藤耕一／大田美智子（故人）／鈴木憲二／青柳美智子／佐々田国昭／中芝永次（故人）／加納佳世子／奥田哲夫／河野芳孝／春名英夫／林真澄／山本眞／松原智恵子

【後援会費】

小山紀巳子／保坂久代／目崎宗世／寺本眞名／小林幸子／川村昌子／古谷美子／林香代子／聖ニコラス天使園／中出てる子／松居勲／榎本房代／佐々木庸／林芳子／藤川治彦／近澤淑子／佐藤千鶴子／笹部浩幸／神谷尚孝／高地敬／浜田悟／山根博子／木村多恵子／中山一郎／佐藤千鶴子／越山健蔵／高橋敏子／池住圭／秋山公子／興津健蔵／興津由紀子／上田貴亮／本多修／上村玉栄／樋口敏夫／奥和子／森中央／福永芽久美／桜井揚子／石井英隆／内宮隆夫／小野田芳大／野上千春／福田順子／橋本祥子／三宅享子／佐藤千鶴子／内田照子／当舎あずさ／中尾由紀子／泉迫子／加納実／富谷晋／豊田商店／田中廉／高橋新／内宮隆夫／辻節子／三宅亨子／川村輝夫／長野加代子／香西一恵／大野吾子／若村正博／佐藤悦子／樋口敏夫／相楽弘子／坪田敏子／今西時子／江野隆夫／本多修／今村祥子／鈴木靖夫／栗井操／中川裕之／東敏勝／森中みよ子／堺聖テモテ教会 30名／上村玉栄／上田浩子／野上千春／高田須磨雄／藤田法子／今西時子／佐々木晶子／松本潤子／岡野利治／辻潤／浜田真理／浅野忠章／小林宏治／竹林敏子／アジア国際夏季学校／武藤六治／大西憲子／児玉勢津子／趙秀一／服部喜代司／服部慶子／高見久江／博愛の園／高田日出夫・恭子／大阪聖アンデレ教会婦人会／山田護／山田郁子／宇野徹／聖バルナバ病院礼拝堂

【献金】

京都伝道区信徒伝道協議会／匿名／立教女学院／京都教区宣教局社会部／金英姫／呉吉子／生野地域活動教会／成岡宏晃／小金井聖公会食事会／弘益大学大学インターン（2回）／夏目和世／高地敬／日本聖公会大阪教区／呉光現／西宮聖ペテロ教会婦人会／匿名／大阪城南キリスト教会／小山俊雄・紀巳子／プール学院中学校高校／匿名／川口基督教会（7回）／東豊中ミカエル教会（4回）／中西久忍夫／ウイルソン ウォーレン／尼崎聖ステパノ教会／富谷晋／石橋聖トマス教会（2回）／庄内キリスト教会／井上／日本聖公会大阪教区連合男子会／西宮聖ペテロ教会婦人会／堺聖テモテ教会／

【クリスマス献金】

大洲幼稚園／西宮聖ペテロ教会婦人会／高見久江／東京聖テモテ教会奉仕会／宗像千代子／西宮聖ペテロ教会／愛光幼稚園／小林聡・篠田茜／草ヶ江幼稚園／小林幸子／寺本眞名／松本聖十字教会／林香代子／上田貴亮／岸和田復活教会／目崎宗世／神谷尚孝／橋本克也／岩田幼稚園／桃山幼稚園／川越キリスト教会／奥晋一郎／市川聖マリヤ教会／千葉復活教会／聖光教会／聖三一幼稚園／富山聖マリヤ教会／聖ミカエル幼稚園／松戸聖パウロ教会／聖パウロ教会／京都復活教会／三条聖母マリヤ教会／古澤秀利・古澤恵依子／関西韓国YMCA／尼崎聖ステパノ教会／聖ルシヤ教会／恵我ノ荘聖マタイ教会／大阪聖アンデレ教会婦人会／宗像千代子／大阪聖愛教会／大阪教区連合男子会／林真澄／こひつじ乳児保育園／聖ルカ教会／鈴木憲二／奥和子／福永芽久美／畑野光太郎／青柳美智子／小出裕司／畑野めぐみ／中芝永次（故人）／中芝正美

聖公会生野センター 2018年度会計報告

| 収入 | 勘定科目      | 2018年度会計   | 支出 | 勘定科目                   | 2018年度会計   |
|----|-----------|------------|----|------------------------|------------|
|    | 受託事業収入    | 11,020,800 |    | 事業費支出                  | 4,111,981  |
|    | 利用者負担金収入  | 3,498,510  |    | 事務費支出                  | 3,971,915  |
|    | 会費収入      | 1,289,000  |    | 人件費支出                  | 13,814,761 |
|    | 分担金収入     | 1,230,000  |    | 積立金                    | 180,000    |
|    | 寄付金収入     | 4,513,826  |    | 経常支出計 (2)              | 22,078,657 |
|    | 助成金収入等    | 151,981    |    |                        |            |
|    | 雑収入       | 147,129    |    |                        |            |
|    | 経常収入計 (1) | 21,851,246 |    | 経常活動資金収支差額 (3)=(1)-(2) | -227,411   |

2018年度は前年よりも赤字幅が削減されましたが、厳しい会計状況は変わりません。  
特に会費・寄付金が減少傾向です。皆様のご支援を引き続きお願いいたします。

= 聖公会生野センターの設立から =

「聖公会生野センターの設立から」その②



1990年代初めは、まだ韓国語を学ぶ人が少数でした。生野地域は在日が多くすむことから民族団体が2, 3世を対象にした우리말（ウリマル＝私たちの言葉という意味）講座は活発にありましたが、本格的に日本人も対象にした韓国語教室はありませんでした。聖公会生野センターは地域の人を主な対象として韓国語教室を開設します。当時、週に1回の教室が圧倒的に多くありました。同時に日本には韓国からの留学生が少しずつ増えてきた時代でした。言語としてウラルアルタイ語族に属する韓国語と日本語は日本語話者（日本語を第1言語とする人、在日韓国朝鮮人もこれに属します）に取っては学びやすい言葉です。同じ韓国語でも韓国語ネイティブの人と在日や日本人の韓国語はその聞き取りやすさに差があります。又、日本語話者から韓国語を学ぶと、お互いが苦労したところを共有しているので学ぶ際の助けになり

= 韓国語教室の開設 =

ます。そこで聖公会生野センターでは韓国から来た留学から本場の発音を習得し、文法等は在日の講師から学ぶという当時では画期的な週2回コースで韓国語講座を始めました。当初は受講生は数人でしたが口コミで増えていきました。数年間週2回の講座を続けた後、クラスが増えていき週2回の講座は難しくなりましたが、上級（現在は研究クラス）を開設し日本語をほとんど使わないクラスの開講までに至ります。韓流ブームで韓国語学習が多くの場所でできるようになった今ですが、市民講座としての韓国語教室は現在も3つのクラスで維持されています。受講生は地域の人を中心としながらも広範囲から参加しています。身近な場所で気軽に韓国語を学べる拠点があるのは大切なことではないでしょうか？10年以上通っている受講生も数人いる中で、現在も研究クラスは健在です。一度聖公会生野センターの韓国語教室を訪ねてみてください。（毎週火曜日午後7時～）

## コラム・一粒の麦

ペテロ 鈴木 憲二

クリンモダン美術展には毎年欠かさず出かけるようにしている。展示されている作品は毎回私の目を楽しませてくれる。あの色彩感覚はどこから湧いてくるのだろうか。何十色、何百色から選んで画いたものであるが、そのセンスは私にはない。色を選べる能力があるのは羨ましいと思う。色と色が隣り合う中に躍動感を感じたことがある。

もう50年以上前に私が中学生の頃にテレビでやなせたかしさんのマンガ教室という番組があった。毎回果物や動物を簡単に描くのであるが、そのとき覚えた描き方を今でも覚えていて、孫が幼稚園に通っていた頃に例えば「リンゴ」を描いて、これ何と尋ねるとちゃ

んと「リンゴ」と言ってくれたのは良かった。その特徴が描けていたようである。

美術展が開催される場所はその年によって変わるがある時はお寺の多目的ホール、画材店のギャラリー、つい最近では鶴橋のコリアタウンのレストランの2階にあるギャラリーであった。絵を鑑賞したあとで、韓国風海苔巻き、キムチ、チジミなど買って帰り食卓に並べると家族に喜ばれた。あのチジミのもっちりした食感はいかにうまい。また美術展が鶴橋の近くで開かれるといいなと思っている。

(すずき けんじ・尼崎聖ステパノ教会信徒)

### 余 韻

■先日韓国から研修に来ている大学生と一緒にあるジャーナリストの講義を受けた。「国交樹立後最悪の日韓関係」から話しが始まり日韓の歴史認識の落差に話しは及んだ。この問題はそう簡単に解決はしないがメディアが双方を煽っているのは残念なことだ。■日韓の狭間ある在日はどんな思いで暮らしているのだろうか？陰に陽に在日に対してプレッシャーになっているのは間違いない■大阪生野のコリアタウン（朝鮮市場）には週末には歩けないほどの観光客が来る。夏休みに入って平日でも学生の姿が多く見られる。この人々はほとんどが日本人だ。日韓関係の悪化はどこ吹く風のように楽しそうに「韓国」を楽しむ人々が行き来している。この人たちが政治ではない「楽しみ」を通して交わりの土台にならないだろうか？■今年も日韓の教会で様々な交流がなされている。私たちはキリストにあって信じ合うことをこれからも大切にしたい（ピクアンヒヤ）

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

◇ 正 会 費    年額   1口   10,000円

◇ 後援会費    年額   1口   3,000円から

・ 郵便振替   00910-1-321780 「聖公会生野センター」

◇ 自由献金・クリスマス献金

・ 郵便振替   00910-1-321780 「聖公会生野センター」

・ 銀行振込   三菱UFJ銀行 「特定非営利活動法人聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

TEL 06-6754-4356

FAX 06-6224-7856

E-Mail [nskkikuno@gmail.com](mailto:nskkikuno@gmail.com)

<http://www.nskk.org/province/ikuno>

発行人：磯 晴久

編集人：呉 光現